



助産師
園 あきほ

MFICU(母体胎児集中治療室)について

今年は早い梅雨の季節の訪れとなりましたが、皆様はいかがお過ごしでしょうか。

当院は、2006年3月地域周産期母子医療センターに認定され、熊本県内の周産期医療の中核として重要な役割を担っています。2016年12月にMFICUが設置され、ハイリスク妊産婦の救急搬送の受け入れを主に行っています。皆様はMFICUをご存知でしょうか。今回はMFICUについて紹介します。

MFICUとは？

Maternal Fetal Intensive Care Unitの頭文字で、Maternalは母体、Fetalは胎児を、ICUは集中治療室を表しています。つまり、お母さんと赤ちゃんの為に集中治療室ということです。妊婦健診で子宮口が開きかけていると指摘されたり、血圧が高いことがわかったりして入院になる方もいらっしゃいます。主な病名は、切迫早産や多胎(双子や三つ子など)、妊娠高血圧症候群、妊娠糖尿病、前置胎盤、胎児発育不全などです。

一般病棟との違い

① 看護体制

MFICUの病床数は9床で、3対1(患者様3人に対し1人の看護師を配置する)の看護体制です。一般病棟は7対1で、一般病棟に比べ患者様の数に対し看護スタッフの数が多いため、緊急時のスムーズな対応や患者様の気持ちに寄り添ったきめ細やかなケア・高度な医療提供へとつながっています。

② 面会制限

現在はコロナウイルスが蔓延している影響でどの病棟でも同じような面会制限を行っておりますが、MFICUでは感染予防の為、通常時から面会は患者様の近親者のみに限らせて頂きます。近親者とはご主人、お子さん、実のご両親、義理のご両親、祖父母、兄弟、叔父母がその対象となります。また、一般病棟では面会時間は9時から21時までとなっていますが、MFICUでは11時から21時までとなっています。入室時には面会に来られた方に面会者カードを書いていただいております。

③ 入院期間

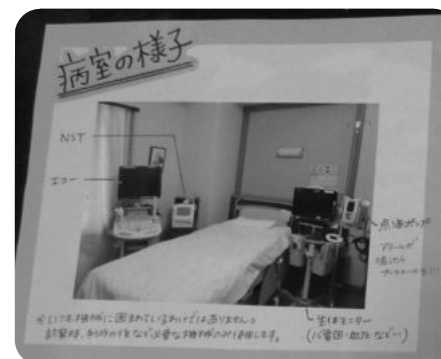
入院する期間は原則として14日以内になっています。症状が安定した場合は14日より早く一般病棟に転床することもあります。また、病状によっては、一般病棟から転床し、MFICUでの管理が必要になる場合もあります。



④ 病室の設備

緊急時に病室から移動することなく診察が受けられるよう、分娩監視装置(赤ちゃんの心拍とお腹の張りをみるモニター)、生体モニター(お母さんの血圧や脈拍を継続してみられるモニター)、超音波検査が行える機器、救急蘇生用の物品などが準備されています。また、それらの機器が入るよう、一般病棟に比べて部屋の広さは広く、緊急時や高度なケアが必要な時に迅速に対応できるよう設備が整えられています。

また、パイオクリーンルームとなっており、感染予防の為、より清潔な空間を保てるような空調設備を備えています。そのため、窓の開閉や、生花・鉢植えの持ち込みはご遠慮いただいております。



MFICUでは24時間体制で患者様やその家族に寄り添い、安心・安楽な医療・看護を目指しています。予期せぬ入院や突然の出産に不安を抱く方もいらっしゃいます。不安を和らげ、赤ちゃんを迎え入れられる準備が出来るよう、出産や産後の育児に向けた保健指導も行っています。必要時は臨床心理士などの多職種とも連携を取りながら治療・看護を行っていきます。何か心配な事、お困りのことがありましたら、私たちに気軽にお声かけください。

